

月刊 やちまなこ

2025. 1.15 発行

No.326

1月号

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



御神渡りく氷丘脈>とアイスバブル

新年を迎えた塘路湖は、週末になるとワカサギ釣りで賑わいを見せている。今年は -15°C 近くまで冷え込む日が多くて、12月中旬には氷上を歩くことが出来ました。

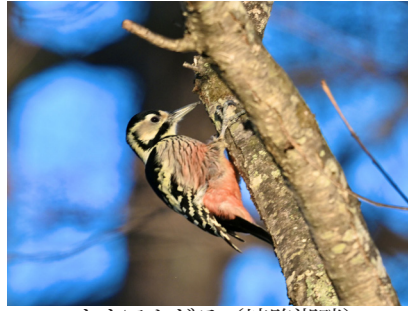
塘路湖の御神渡り（氷丘脈）を期待する中、今シーズンはシラルトロ湖の氷上に神様が通ったようです。昨年9月にグランドオープンをしたシラルトロ湖の観光宿泊施設「ぼん・ぼんゆ」を祝うかのように、建物の裏から対岸に向けて隆起した。

氷丘脈の周辺には、水深の浅いシラルトロ湖ならではの、炭酸水のような細かい気泡が散りばめられたアイスバブルも見られ、その美しさに、しばし心を奪われました。



アカゲラ (二本松)

冬の森「キョッ、キョッ」という声がある存在を知らせる中型のキツツキ。肩羽の白斑が特徴。



オオアカゲラ (塘路湖畔)

暗い林内でもひと際存在感のある大型のキツツキ。胸の黒縞がアカゲラとの違い。

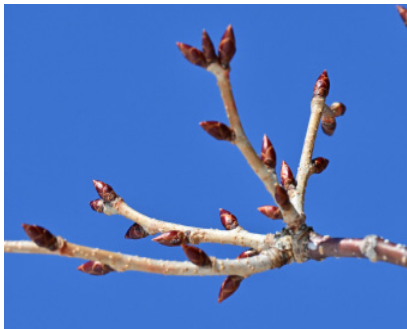


エナガ (塘路湖畔)

留鳥だが「雪の妖精」と呼ばれる。来館者からの問合せが最も多い野鳥。エナガ科

【植物・菌類】

寒く厳しい冬は植物たちにとって、春に新緑を輝かせるための準備の季節。彩りの少ない季節ではあるが、その冬芽の中では、着実に春の準備が成されている。華やかな花や新緑の季節が待ち遠しい。



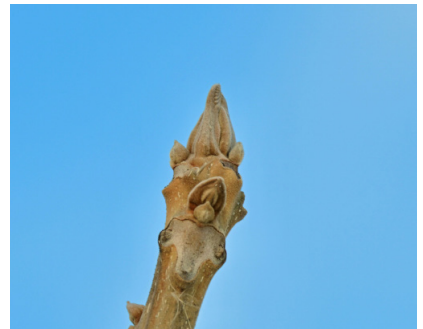
エゾヤマザクラ冬芽 (蝦夷山桜)

尖った卵形の冬芽が特徴。これから春に向けてゆっくりと膨らんでいく。バラ科



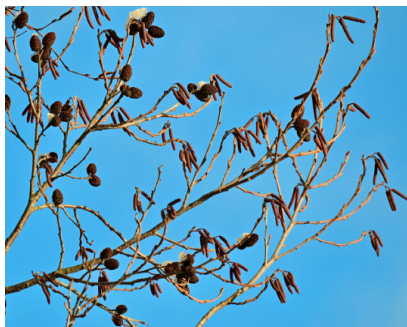
カラマツの球果 (唐松・落葉松)

小さな松ぼっくりを沢山つける。多くの野鳥が冬芽を好んで食べにくる。マツ科



オニグルミ冬芽 (鬼胡桃)

多くの葉を葉脈で支えるため、根本が太くなる。秋に落葉すると付け根の形がわかる。クルミ科



ハンノキ (榛の木)

1本の木に雄花と雌花をつける。細長い方が雄花。湿原に生える樹の1つ。カバノキ科



ナナカマドの結実 (七竈)

ツグミ科、ヒヨドリ科、レンジャク科など多くの野鳥が冬季の糧とする赤い結実。バラ科



チャミダレアミタケ (茶乱網茸)

積雪によって食物が減る季節。エゾシカたちにとっては貴重な食糧となっている。多孔菌科

【哺乳類・昆虫】

寒さが厳しくなると、生き物の姿を探すのは大変である。冬眠の能力を持つ動物は姿を消し、厳しい冬を食つなぐ動物も、黙々と雪の中の食物を探し続ける。



エゾシカ (コッタロ湿原)

湿原帯の群れ。寒さのせいか体を寄せ合っていて寒さを凌いでいるようだ。シカ科



キタキツネ (釧路湿原)

冬毛は夏毛よりもふわっとボリュームがあるイメージ。雪上で野ネズミなどを探す。イヌ科



クモガタガガンボの一種♀ (蝶の森)

積雪期になると雪上を歩く翅の退化した昆虫。クモのように見える事が名前の由来。ガガンボ科

◎アイヌ刺繍講座を開催しました。

1月11日(土)は、アイヌ刺繍を体験できる講座を開催しました。塘路湖は海跡湖であり、かつて周辺にはアイヌの集落が多くあった。当講座ではアイヌ民族の慣習文化の1つとして、アイヌ紋様について解説がなされた。当講座ではアイヌ紋様をチェーンステッチという技法で紡ぐもの。初心者の方は慣れが必要なので、先ず練習用の生地でチェーンステッチを習得。慣れてきたところで今度はアイヌの紋様を「一筆書き」に近い要領で形づくっていくのですが、縫い始めや糸替えの接続部分が難しく、また、均一なチェーンが続けられるかが課題となって、なかなか進みません。参加者の方たちは、分からない部分を講師に質問しながら、真剣に作業を進めていきました。完成までたどり着いた方は少数でしたが、未完成の方も帰宅後に完成できるよう、講師と課題を整理し、必要な材料と合わせて宿題として持ち帰りました。

参加者 11名

作業風景



作品



2月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

シラルトロ湖・蝶の森スノーシューハイク

[日 時] 2月1日(土) 10時～12時

[定 員・参加料] 10名 無料

[開催場所] シラルトロ湖・蝶の森周辺

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

サルボ～シラルトロ湖スノーシューハイク

[日 時] 2月15日(土) 10時～13時

[定 員・参加料] 10名 無料

[開催場所] サルボ展望台・シラルトロ湖南岸周辺

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

湿原の裏山でスノーシューハイク

[日 時] 2月16日(日) 10時～12時

[定 員・参加料] 10名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで
(0154-65-2323)

◆日出・日入時間 12/15(6:47,15:46). 12/30(6:54,15:54). 1/14(6:51,16:09)

～指導員のひとり言～

■新年となって最初に飛び込んできた訃報。当館を訪れた方たちにお配りしている折り鶴を、長年に亘り折って寄贈して頂いていた、釧路湿原国立公園パークボランティアの伊勢志郎さん(享年90歳)が、12月末に永眠されたという悲しいものでした。

伊勢さんと私は環境省の頃、外来種の防除や野生生物調査など、一緒に働く機会が多く、釧路湿原は自分たちの手を守っていくのだという強い意志を教えられました。最後の入院をされるまで、ずっと折り鶴を折り続けてくれていたそうです。

伊勢さん、長い間、本当に有難うございました。

心より、ご冥福をお祈りいたします。



釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野
TEL: 015-487-3003 FAX: 015-487-3004
E-mail: emc@kushiro-shitsugen-np.jp

インスタグラム [torokoemc](https://www.instagram.com/torokoemc)

開館時間: 10:00～16:00

(4～10月: 17:00まで)

休館日: 毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料